

事例 29

- 性 別男性
- 年 齢75 歳
- 介護環境介護老人福祉施設
- 最も類似する状態像の例 4 - 1 又は 4 - 4
- 要介護度変更要介護 3 → 要介護 4

●審査及び判定の概要

平成 8 年頃より痴呆症状が出現し、その後、症状は増悪して平成 11 年 7 月に現在の施設に入所となった事例。

介護認定審査会では、「特記事項及び主治医意見書において、車いす徘徊、放尿、摂食などに対し見守りや声かけが常に必要等の記載があることから介護の必要性が高いのではないか」との意見が出され、要介護 4 に変更した。

介護審査会資料

申請区分：新規申請

被保険者区分：第1号被保険者

年 齢 : 75
 性 別 : 男
 過去の認定審査会結果 : なし
 前回認定有効期間 :
 前回介護保険審査会結果 : なし
 一次判定結果 : 要介護3
 要介護認定等基準時間 : 89分
 一次判定警告コード :
 機能訓練+間接生活介助 :

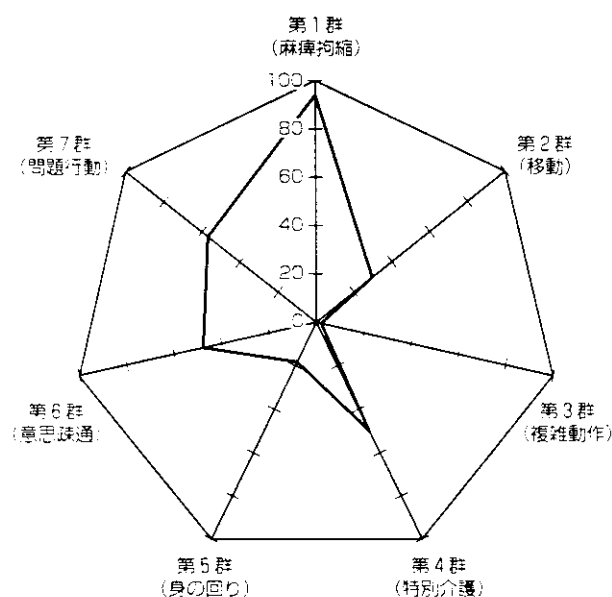
--	--	--

現在の状況 : 介護老人福祉施設
 訪問介護（ホームヘルプサービス） : 0回/月
 訪問入浴介護 : 0回/月
 訪問看護 : 0回/月
 訪問リハビリテーション : 0回/月
 居宅療養管理指導 : 0回/月
 通所介護（デイサービス） : 0回/月
 通所リハビリテーション（デイケア） : 0回/月
 福祉用具貸与 : 0品目
 短期入所生活介護 : 0日/月
 短期入所療養介護 : 0日/月
 痴呆対応型共同生活介護 : 0日/月
 特定施設入所者生活介護 : 0日/月
 福祉用具購入 : 0品目/6月間
 住宅改修 : なし

障害老人自立度：B2

痴呆性老人自立度：IV

中間評価項目表



中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群
94.3	29.7	14	51.5	18.6	47.1	57.2

(特別な注意)

点滴の管理 : 気管切開の処置
 中心静脈栄養 : 疼痛の看護
 透析 : 経管栄養
 ストーマの処置 : モニター測定
 酸素療法 : 褥瘡の処置
 レスビレーター : カテーテル

第1群 (麻痺拘縮)
 1. 麻 痺 (左-上肢)
 (右-上肢)
 (左-下肢)
 (右-下肢)
 (その他)
 2. 拘 縮 (肩関節)
 (肘関節)
 (股関節)
 (膝関節)
 (足関節)
 (その他)

ある

ある

第2群 (移動)
 1. 寝返り
 2. 起き上がり
 3. 両足での座位
 4. 両足つかない座位
 5. 両足での立位
 6. 歩 行
 7. 移 動

つかまれば可

できない

自分で支えれば可

自分で支えれば可

できない

できない

全介助

第3群 (複雑動作)
 1. 立ち上がり
 2. 片足での立位
 3. 浴槽の出入り
 4. 洗 身

できない

できない

全介助

全介助

第4群 (特別介護)
 1. ア. じよくそう
 イ. 皮膚疾患
 2. 片手胸元持ち上げ
 3. 嚥 下
 4. ア. 尿 意
 イ. 便 意
 5. 排尿後の後始末
 6. 排便後の後始末
 7. 食事摂取

見守りが必要

ない

全介助

全介助

見守りが必要

第5群 (身の回り)
 1. ア. 口腔清潔
 イ. 洗 顔
 ウ. 整 髪
 エ. つめ切り
 2. ア. ボタンのかけはし
 イ. 上衣の着脱
 ウ. スボン等の着脱
 エ. 靴下の着脱
 3. 居室の掃除
 4. 薬の内服
 5. 金銭の管理
 6. ひどい物忘れ
 7. 周囲への無関心

一部介助

全介助

全介助

一部介助

一部介助

全介助

全介助

全介助

ある

ときどきある

第6群 (意思疎通)
 1. 視 力
 2. 聴 力
 3. 意思の伝達
 4. 指示への反応
 5. ア. 毎日の日課を理解
 イ. 生年月日をいう
 ウ. 短期記憶
 エ. 自分の名前をいう
 オ. 今の季節を理解
 カ. 場所の理解

ときどきできる

ときどき通じる

できない

できない

できない

できない

できない

第7群 (問題行動)
 ア. 被害的
 イ. 作 話
 ウ. 幻視幻聴
 エ. 感情が不安定
 オ. 昼夜逆転
 カ. 暴言暴行
 キ. 同じ話をする
 ク. 大声をだす
 ケ. 介護に抵抗
 コ. 常時の徘徊
 サ. 落ち着きなし
 シ. 外出して戻れない
 ス. 一人で出たがる
 セ. 収集癖
 ソ. 火の不始末
 タ. 物や衣類を壊す
 チ. 不潔行為
 ツ. 異食行動
 テ. 性的迷惑行動

ときどきある

ときどきある

ときどきある

ある

ときどきある

ある

ときどきある

ある

ある

ある

ある

ある

ある

ある

ある

ある

認定調査票（特記事項）

1. 麻痺・拘縮に関連する項目についての特記事項

(1-1 麻痺等の有無) 両下肢の筋力低下が見られる。

2. 移動等に関連する項目についての特記事項

(2-6 歩行) 車いすで移動。自走できる。

3. 複雑な動作等に関連する項目についての特記事項

(3-4 洗身) 理解力と意欲低下のため、自分で洗おうとしない。

4. 特別な介護等に関連する項目についての特記事項

(4-3 嚥下) 指示しないと飲み込まないときが多い。
(4-5 排尿後の後始末、4-6 排便後の後始末) オムツを使用。放尿があるので、尿意はあるとした。
(4-7 食事摂取) 自分でスプーンを使って食べるが、指示しないと食べようとしていない。

5. 身の回りの世話等に関連する項目についての特記事項

(5-1 ア 口腔清潔) うがい等はできる。
(5-1 イ 洗顔) 顔を洗うという理解ができない。
(5-1 エ つめ切り) 理解がなく危ない。
(5-2 ア ボタンかけはずし) 途中まですればできる。
(5-2 イ 上衣の着脱) 腕を通すが、痴呆のため、完全にはできない。
(5-2 ウ ズボン等の着脱、エ 靴下の着脱) 足を通すこともできない。
(5-3 居室の掃除、5-4 薬の内服、5-5 金銭の管理) 理解力がない。薬も口の中に入れないと飲もうとしない。

6. コミュニケーションに関連する項目についての特記事項

- | |
|---|
| <p>(6-3 意思の伝達) できる時とできない時と半々である。</p> <p>(6-4 介護側の指示への反応) 2 回に 1 回程度。質問しても会話にならない。</p> <p>(6-5 理解) 名前のみ言える。質問してもまったく関係のない話をする。</p> |
|---|

7. 問題行動等に関連する項目についての特記事項

- (イ 作話) 月に1回程度。
- (ウ 幻視幻聴) 月に1回程度。
- (エ 感情が不安定) 急に泣いたり怒ったりする。月に2回。
- (オ 昼夜逆転) 週1回以上。
- (カ 暴言暴行) 暴言が月1回以上。
- (キ 同じ話をする) 常時、机などをたたく。
- (ケ 介護に抵抗) 入浴等、介護に抵抗する。月1～2回。
- (コ 常時の徘徊) 車いすで園内を動く。毎日。
- (シ 外出して戻れない) 部屋に戻れない。
- (ス 一人で出たがる) 動き回るので目が離せない。毎日。
- (チ 不潔行為) オムツを外し、放尿する。

主治医意見書

記入日 平成11年 〇月 〇日

申請者	(ふりがな)	男 ・ 女	〒 -
	明・大・昭 年 月 日生(75歳)		
上記の申請者に関する意見は以下の通りです。 本意見書が介護サービス計画作成に利用されることに ☐ 同意する。 ☐ 同意しない。			
医師氏名		電話 ()	
医療機関名		FAX ()	
医療機関所在地			
(1) 最終診察日	平成 11年 〇月 〇日		
(2) 意見書作成回数	☒ 初回 ☐ 2回目以上		
(3) 他科受診の有無	☐ 有 ☒ 無 (有の場合)→ ☐ 内科 ☐ 精神科 ☐ 外科 ☐ 整形外科 ☐ 脳神経外科 ☐ 皮膚科 ☐ 泌尿器科 ☐ 婦人科 ☐ 眼科 ☐ 耳鼻咽喉科 ☐ リハビリテーション科 ☐ 歯科 ☐ その他 ()		

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名 (特定疾病または障害の直接の原因となっている傷病名については1. に記入) 及び発症年月日			
1. 脳血栓後遺症	発症年月日	(昭和・平成)	3年 月 日頃
2. 脳血管性痴呆	発症年月日	(昭和・平成)	8年 月 日頃
3.	発症年月日	(昭和・平成)	年 月 日頃
(2) 症状としての安定性		☒ 安定 ☐ 不安定 ☐ 不明	
(3) 介護の必要の程度に関する予後の見通し		☐ 改善 ☒ 不変 ☐ 悪化	
(4) 障害の直接の原因となっている傷病の経過及び投薬内容を含む治療内容 (最近6ヶ月以内に变化のあったもの 及び 特定疾病についてはその診断の根拠等について記入)			
平成3年脳血栓発症。平成8年頃より痴呆症状が発現。平成9年より徘徊、放尿等、痴呆症状が悪化。平成11年7月〇日、施設入所。入所時には不安定ながら歩行可能であったが、現在は歩行不可で車いすを使用。 処方：脳循環代謝改善剤、胃粘膜保護剤、緩下剤			

2. 特別な医療 (過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック)

処置内容	☐ 点滴の管理	☐ 中心静脈栄養	☐ 透析	☐ ストーマの処置	☐ 酸素療法
	☐ レスビレーター	☐ 気管切開の処置	☐ 疼痛の看護	☐ 経管栄養	
特別な対応	☐ モニター測定(血圧、心拍、酸素飽和度等)				
失禁への対応	☐ カテーテル(コンドームカテーテル、留置カテーテル等)				

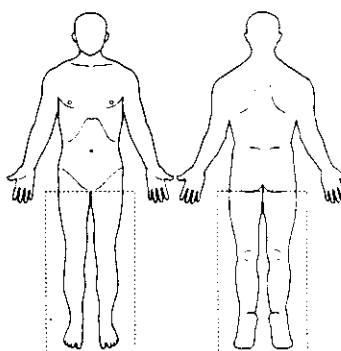
3. 心身の状態に関する意見

(1) 日常生活の自立度等について	
・障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)	☐ 正常 ☐ J1 ☐ J2 ☐ A1 ☐ A2 ☐ B1 ☒ B2 ☐ C1 ☐ C2
・痴呆性老人の日常生活自立度	☐ 正常 ☐ I ☐ IIa ☐ IIb ☐ IIIa ☒ IIIb ☐ IV ☐ M
(2) 理解および記憶	
・短期記憶	☐ 問題なし ☒ 問題あり
・日常の意思決定を行うための認知能力	☐ 自立 ☐ いくらか困難 ☐ 見守りが必要 ☒ 判断できない
・自分の意思の伝達能力	☐ 伝えられる ☐ いくらか困難 ☐ 具体的要求に限られる ☒ 伝えられない
・食事	☒ 自立しないし何とか自分で食べられる ☐ 全面介助
(3) 問題行動の有無 (該当する項目全てチェック)	
☒ 有 ☐ 無	
(有の場合) → ☐ 幻視・幻聴 ☐ 妄想 ☐ 昼夜逆転 ☐ 暴言 ☐ 暴行 ☐ 介護への抵抗 ☐ 徘徊	
☐ 火の不始末 ☒ 不潔行為 ☐ 異食行動 ☐ 性的問題行動 ☐ その他 ()	

(4) 精神・神経症状の有無
☐有 (症状名) ☒無
(有の場合) → 専門医受診の有無 ☐有 () ☒無

(5) 身体の状態
利き腕 (☐右 ☐左) 体重 = 54.4 kg 身長 = 147 cm 凡例

☐ 四肢欠損	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	☐ 褥瘡	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)
☒ 筋力の低下	(部位: 両下肢 程度: ☐ 軽 ☒ 中 ☐ 重)	☒ その他皮膚疾患	(部位: 全身 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)
☐ 褥瘡	(部位: 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	☐ 関節の拘縮	・肩関節 ☐ 右 ☐ 左 ・肘関節 ☐ 右 ☐ 左
☒ その他皮膚疾患	(部位: 全身 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)	☐ 失調・不随意運動	・上肢 ☐ 右 ☐ 左 ・下肢 ☐ 右 ☐ 左
☐ 関節の拘縮	・肩関節 ☐ 右 ☐ 左 ・肘関節 ☐ 右 ☐ 左		



4. 介護に関する意見

(1) 現在、発生の可能性が高い病態とその対処方針
☒尿失禁 ☒転倒・骨折 ☒徘徊 ☐褥瘡 ☐嚥下性肺炎 ☐腸閉塞 ☐易感染性
☐心肺機能の低下 ☐痛み ☐脱水 ☐その他 ()
→ 対処方針 (オムツ使用。徘徊への見守りは現在歩けないためない。)

(2) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものには下線を引いて下さい)
☐訪問診療 ☐短期入所療養介護 ☐訪問栄養食事指導
☐訪問看護 ☐訪問歯科診療 ☒その他 (入所中)
☐訪問リハビリテーション ☐訪問歯科衛生指導
☐通所リハビリテーション ☐訪問薬剤管理指導

(3) 介護サービス (入浴サービス、訪問介護等) における医学的観点からの留意事項
・血圧について ☒特になし ☐あり ()
・嚥下について ☐特になし ☒あり (口腔ケアが必要。)
・摂食について ☐特になし ☒あり (きざみ食にする必要あり。見守りが必要。)
・移動について ☐特になし ☒あり (移動時介助必要。車いす対応。)
・その他 ()

(4) 感染症の有無 (有の場合は具体的に記入して下さい)
☐有 () ☒無 ☐不明

5. その他特記すべき事項

要介護認定に必要な医学的なご意見等をご記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添付して頂いても結構です。)

摂食時、無理に多くの食物を口内に入れるため、喉を詰まらせたり、誤嚥の危険があり、常に声かけや見守りが必要である。

